

初春巴港賑 (はつはるともえのにぎわい) を 多くの遺愛関係者が支えていました。

「函館の春は、この公演から」と言われる函館市民歌舞伎「第39回初春巴港賑」が、2月12日(日)13:00~17:00 函館市民会館大ホールで行われました。演目は「毛抜」と「天衣紛上野初花河内山」でした。

ゲストも超豪華で、はじめに、札幌からわざわざ駆けつけて下さった高橋はるみ北海道知事(本物です。)がご挨拶をし、終わりには工藤壽樹函館市長が御家人・片岡直次郎役で登場し、盛り上げてくれました。口上では、今均実行委員長、日本銀行函館支店長、NHK函館放送局長、北海道新聞函館支社長、道警函館方面本部長、そして東京で活躍しているプロの歌舞伎俳優で昨年からの歌舞伎を監修している大谷桂三氏らがユーモアたっぷりに語っていました。

大谷氏を支える妻の千春さん、幕間にあらすじと出演者紹介を講談風に行った講談師・田辺鶴瑛さん、「河内山」で浪路を演じた声楽家・佐藤朋子さんは遺愛出身で現役遺愛教員。やはり幕間で艶やかで華やかな舞を踊った函館邦楽舞踊協会連中にも遺愛の同窓生が数人おりました。また遺愛高校美術部も歌舞伎の絵を2枚描き上げ、市民会館入口正面に展示されていました。舞台裏にご挨拶に伺うと、出演される男性の半数近くの方が奥様やお子様も遺愛出身ということで驚きましたし、司会の犬童いづみさんもお子様も遺愛出身でした。

函館の文化の継承・興隆のために、多くの遺愛関係者が様々な形



で関わって下さっているのは、とても嬉しいことですし、現役の後輩たちにとっても励みになります。

肝心の歌舞伎については、素人の集まりとは思えないほど、素晴らしい演技で、思わず引き込まれました。はじめは昔風の言い回しになれずに難儀したところもありましたが、次第に慣れ、おおいに楽しませていただきました。

2017年2月14日(木)